

## 道普請人 ミャンマー駐在員 活動報告書

提出日：2020年4月3日（金）

氏名：齋藤 芳樹

駐在期間：2019年3月9日（土）～2020年2月22日（土）

駐在場所：ミャンマー

### 内容

1. 駐在員として行った業務
2. 業務を実施するにあたって心がけたこと
3. ミャンマーでの生活
4. 1年間の駐在の振り返りとまとめ

#### 1. 駐在員として行った業務

道普請人のミャンマー駐在員として実施した業務の内容を、以下に記載します。

##### ① 事業進捗の管理、及び活動計画の策定

現地スタッフとのミーティングを通して、事業の進捗状況の確認、進捗状況を踏まえた活動計画の策定や見直しを行いました。道路施工が予定通りに進んでいるか、どの期間にどの活動を行うかについて、現地スタッフと定期的に確認し、計画通りに実施できるように調整しました。

##### ② 事業予算の管理

助成を得ている外務省の規定に沿って、事業予算の管理を行いました。

##### ③ 本部への事業進捗と活動内容の報告

2週間ごとに活動報告書を作成し、理事長の木村先生、理事の福林先生に提出することで、事業の進捗や活動内容を報告しました。また、専門家とは適宜メールで連絡を取り、現場の状況を共有しました。

##### ④ 専門家・本部スタッフ渡緬時の日程調整、渡緬に向けた諸準備

現場の状況や各時期での活動内容に合わせて、専門家や本部スタッフの渡緬日程の調整を行いました。また、渡緬に必要な航空券、宿泊施設、ビザ、事業地への渡航許可の手配を行いました。

#### ⑤ 専門家の現地業務の補助

専門家が村人に対して円滑に技術指導が行えるように、現場訪問前に現場の状況を伝達しました。また、現場では適宜通訳等を行い、専門家の現地業務を補助しました。



写真1 専門家と現地エンジニアによる現場での施工法確認の様子



写真2 専門家による村人への研修の様子

#### ⑥ 在ミャンマー日本大使館への事業報告

定期的に在ミャンマー日本大使館を訪問し、事業進捗、事業成果、事業計画の報告を行いました。

#### ⑦ 外務省に提出する各書類の作成

外務省に提出する各書類の作成を行いました。

#### ⑧ ミャンマー地方道路開発局の担当者との会議

定期的にミャンマーの政府機関である地方道路開発局の事務所を訪問し、事業内容の報告を行いました。ワークショップ等を開催する際は、道普請人と地方道路開発局が協働して円滑に進められるように、日程や内容の調整を行いました。

また、外務省からの助成が終了した後に、ミャンマー国内でどのように住民参加での地方道路整備を継続するかについて、地方道路開発局の担当者と協議を重ねました。



写真3 地方道路開発局の担当者との話し合い

### ⑨ ワークショップの企画、準備、開催

ミャンマーの行政官や国際機関の職員に対して、道普請人の活動や成果を共有するためのワークショップを開催しました。地方道路開発局の担当者や現地スタッフと日程、内容、参加者、会場等について話し合い、必要な準備を行いました。ワークショップ当日は、ミャンマーでの道普請人の活動内容や成果を説明するプレゼンテーションを実施しました。



写真4 ワークショップ参加者による  
記念撮影



写真5 ワークショップでプレゼンテーションを  
行う様子

### ⑩ 国際機関の担当者との会議

世界銀行、アジア開発銀行や国際労働機関の事務所を訪れ、道普請人の活動や成果を共有しました。また、ミャンマーの地方道路整備の状況や、各国際機関のミャンマーへの助成の形態について、担当者と意見交換を行いました。



写真6 世界銀行ヤンゴン事務所にて担当者と話し合った際の写真

### ⑪ 道普請人の活動内容や成果をまとめた資料の作成

国際機関の職員に道普請人の活動内容や成果をよく理解してもらうために、それらを分かりやすく伝えるための資料を適宜作成しました。

## ⑫ (有) 本郷工業の事業地視察時の受け入れ

(有) 本郷工業が道普請人の事業地を視察した際に、日程調整等の必要な準備と当日の案内を行いました。



写真7 (有) 本郷工業による  
事業地視察の様子



写真8 事業地の村人との記念撮影

## 2. 業務を実施するにあたって心がけたこと

駐在員として業務をする中で、気をつけたことや心がけていたことを、以下に記載します。

### ① コミュニケーションを上手にとれるように工夫する。

私には今まで、海外に長期間駐在して現地の人たちと英語で仕事をするという経験はありませんでした。お互いに第一言語ではない英語を使って仕事を進めていくことは簡単なことではなく、現地スタッフの言うことが理解できない時や、反対に、現地スタッフに伝えたいことを理解してもらえないといったこともありました。しかし、業務を行う上では、お互いの言うことを理解しないと先に進めなかったり、誤解が生まれやすいため、何とかして言いたいことを伝える必要がありました。そこで、以下のことを意識して、現地スタッフとコミュニケーションを取るようになりました。

#### 1) こまめに相手の反応を見る。

自分の言ったことを相手が理解しているか確認するために、一度に多くのことを伝えるのではなく、少しずつ相手の反応を見ながら話すように努めました。

#### 2) 大事なことがよりうまく伝わるように、使う文や単語を工夫する。

長い文章で説明するよりも、単語のみ、あるいは短い文で分けて伝える方が伝わりやすいので、話をする前に要点をまとめ、簡潔に伝えることを意識しました。

### 3) 言葉だけでなく、他の物を用いて説明する。

言葉だけで伝えるのではなく、ジェスチャー、イラスト、資料等を見ながら話し合いを進めるように努めました。また、自分が相手の話す英語を理解できない時は、紙にスペルやイラストを書いてもらうなど、相手の言うことを理解できるように工夫しました。

### 4) 話し合った内容を何度も確認する。

一度伝えたことを時間が経った後にも再度伝えたり、相手が理解しているかどうかを何度も確認するようにしました。話し合いから時間が経つと忘れてしまうこともあるので、何度も確認することは必要不可欠なことだと思います。

### 5) 冷静に話し合いを進める。

私は最初、現地のスタッフとの話し合いの中で伝えたいことが伝わらない時や、意見が食い違った時に感情的になってしまうことがありました。しかし、感情的に議論しても、雰囲気が悪くなるだけで何も解決しないということを学びました。また、スタッフによって仕事のスピードや英語の得意不得意も違うため、まずは話し相手のことを理解した上で、冷静に話し合いを進めることを意識しました。

## ② 時間に余裕をもって業務を行う。

自分がいつまでにどの仕事を終わらせる必要があり、そのために今何をすべきかを意識して業務を行いました。最初のうちは、上司、専門家や現地スタッフの指示を受けて動いていましたが、徐々に自分のすべきことが分かるようになりました。その中で、時間に余裕をもって業務を終わらせられるように心がけました。

ミャンマー政府や国際機関の職員は忙しいことが多く、なかなか会議の時間が取れなかったり、直前に時間が変更になったりすることが多くありました。このような事態にも対応できるように、常に先のことを考えて早めに連絡して日程を決めることや、資料を作成することが必要でした。

## ③ 自分の理解を深めた上で業務を行う。

渡緬したばかりの頃は、ミャンマーのことも事業の進め方も何も分からない状態でした。そのままでは事業を進めることはできないので、周りにいる人にたくさん質問をして、ミャンマーや事業への理解を深めました。また、過去の駐在員が作成した資料を読み、参考にして、事業内容や資料の作成の方法を勉強しました。事業への理解が深まるほど、資料作成などがスムーズに進められるようになりました。

### 3. ミャンマーでの生活

ミャンマーでの生活の様子、及び日本を離れて約1年間ミャンマーで生活する中で感じたことを以下に記載します。

#### ① 食文化

ミャンマーの人々は米が大好きで、一度の食事で大量の米を食べます。米中心の食文化という点が日本と同じであるため、私にとってはミャンマーの食事はなじみやすいと感じました。ご飯の上には、油を大量に入れて調理した肉や野菜や魚をのせて食べます。また、麺料理や中華料理に近い料理もよく食べられています。ミャンマーの人々は辛いものが好きな人が多いため、トウガラシが大量に入った料理も多いです。

ミャンマーで一番人口の多い都市であるヤンゴンでは、日本食、中華、ファストフードなどのレストランが多くあり、食べたいものはほとんど何でも食べられました。そのため、食事に困るということはありませんでした。



写真9 ミャンマーでの食事の様子。調理された野菜、肉、魚をご飯にのせていただきます。

#### ② 衣服

ミャンマーの人たちは、伝統衣装であるロンジーを日常的に着用しています。ミャンマーの人たちはフォーマルな場所でも正式な衣装としてロンジーを着用しており、贈り物としてももらうことも多いです。最初は布を上手くまとめて着用するのが難しかったですが、徐々に慣れてうまく着こなせるようになりました。



写真10 多くの人が着ている長いスカートのような衣服が伝統衣装のロンジーです。

### ③ 住環境

#### 1) 治安

ミャンマーは、仏教国であり、困ったときは助け合おうといった考えが国民の間で根付いています。そのため、やさしい人が多く、他人に危害を与えるような人は少ないと感じました。実際に町中を歩く際も、最低限の注意を払っていれば、危険な目に遭うことはほとんどありませんでした。

#### 2) 季節と気候

ミャンマーの季節は大きく3つに分けられます。3月から5月上旬ごろまでが暑季となり、気温は毎日昼間に40度前後まで上がり、夜も苦しい暑さが続きます。ミャンマーの人々は、毎年のことなので暑さに慣れているようでした。

5月の中旬ごろから10月頃まで、ミャンマーは雨季となります。雨季には基本的に毎日雨が降りますが、スコールのような雨が短時間降る時もあれば、弱い雨が長時間続く日、強い雨が長時間続く日もあります。本当に雨のひどい日は、多くの道路が冠水してしまい、外を歩くのが困難になりました。道路脇の排水路にゴミが掛かって雨水があふれてしまうこともあるようです。



写真11 雨季には写真のように道路が冠水してしまいうこともありました。

11月から2月まで、ミャンマーは乾季となります。気温は日中30度前後の日が多く、最も過ごしやすい時期となります。雨は全く降りません。地域によっては、夜中に10度前後まで冷え込むことがあり、防寒具が必要となりました。

### 3) 停電

ミャンマーでは、電力の供給が不足しているためか、頻繁に停電が起こります。ヤンゴンでは、地域ごとに時間を分けて計画停電を実施することもあります。ミャンマーの地方でも、停電が起こることは多いです。また、停電したときにも電気が使えるように、一部のホテルやショッピングモールの入ったビルでは発電機を置いています。一般の住居には普及していません。

私はミャンマーで、普段当たり前のように電気が使えることがいかに幸せなことであるかを学びました。また、自分の生活がいかに電気に依存していたかを知るきっかけにもなりました。これからも電気を大切に使いたいと思います。

### 4) 生活をする上で必要な施設、設備と移動手段

ミャンマーで人口の一番多い都市であるヤンゴンには、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、カフェ、様々な料理のレストランが多くあり、生活が不便だと感じることはありませんでした。多くのカフェにはWi-Fiが設置されていました。また、英語の通じる店員も多く、快適に生活することができました。

主なヤンゴン内での移動手段はタクシーを使っていました。配車アプリのGrabが普及しており、安全に目的地に到着することができます。また、タクシー以外にも市内にはバスが走っており、市民の足として機能しています。こちらは番号、行先の表示の多くがミャンマー語で書かれているため、慣れるまでは使いにくいと感じました。しかし、非常に安価（15円～40円程度）で乗れるため、頻繁に利用していました。

ヤンゴンには電車も走っていますが、走行速度が遅く、目的地と最寄り駅の間に距離があることも多かったため、ほとんど利用しませんでした。

## 4. 1年間の駐在の振り返りとまとめ

最後に、1年間の駐在員生活を振り返り、まとめを以下に記載します。

駐在を始める前の僕にとって、ミャンマーは行ったこともなく、世界地図上で場所を知っている程度の国でした。そこにどんな人がいるのかも知らず、常駐の日本人一人で上手くやっていけるのかどうか、不安に思うこともありました。

ミャンマーに到着したばかりの頃は、毎日が驚きと発見の連続でした。海外に短期間の旅行で数回しか行ったことの無かった僕は、日本の人々とミャンマーの人々の生活文化、考え方、習慣の違いにとっても驚かされました。そして、それらをとても面白いと思うようになりました。



その一方で、今まで内側からしか見たことの無かった日本を、外から見ることができました。町中には多くの日本の中古車が走っており、ヤンゴンを走る環状線の車両は、かつて日本国内を走っていたものでした。町中には JAPAN STORE という店があり、日本の 100 円ショップと同じ商品が売られていました。一緒に仕事をしていた現地スタッフは、JAPAN STORE で買った食器などを、質が良いと言って愛用していました。このように、町を歩いているだけでも、日本とミャンマーのつながりを見つけることができ、日本がどのようにミャンマーと関わっているのかを考察することができました。



写真 12 ミャンマーの人たちも利用している JAPAN STORE

ミャンマーの人々の優しさには、いつも助けられました。英語が分からなければ英語が話せる人を連れてきてくれたり、体調が悪い時には飲み物を買ってきてくれたりと、自然な心遣いのできる人が多かったように思います。また、穏やかな人が多く、笑顔で接してくれる人が多いのも印象的でした。

ミャンマーには、自分の国の課題をしっかりと理解し、それらをどうにかして解決したいと考える人が多くいました。自分たちの生活を改善したいと考え、必死になっている姿を見て、私もそういった姿勢を見習い、努力しなければならぬと強く感じました。

道普請人の事業では、実際に土木の現場を見て、多くのことを学びました。

第一に、道路が人々の生活の基盤としてとても大きな役割を果たしていることをよく理解しました。私は、日本で生活していて、道がなくて困ったという経験はなく、そういった話を聞いたこともありませんでした。しかし、ミャンマーの農村部では、雨季になると道路が泥沼化し、緊急時に病院に行けず、市場などへのアクセスも困難になるといったことが起きています。こういった現場を見たり話を聞く度に、人々が生活するにあたって、整備された質の良い道路がいかに重要であるかを思い知らされました。

道路施工の現場を見ていて、計画通りにいかないことが多いことも学びました。現場に合った施工を進めていくためには、実際に現場を見て解決策を見つけていくことが大事だと分かりました。一方で、その解決策の根拠となる部分には、学校で学んだ知識や現象の

理解が必要不可欠であるということも分かりました。しっかりとした土木知識や考え方を理解した上で、実際に現場を見て対応していくこと、これが重要なことであると感じました。

実際に現場を見ることで、土木の基本的な知識への学習意欲も大きくなりました。時には専門家の言うことがすぐに理解できない時もあり、勉強不足を痛感することもありました。引き続きこの気持ちを忘れずに、勉強に励みたいと思います。



写真 13 村人の手によって道路補修が行われてれている様子

最後になりますが、それまで全く知らなかったミャンマーという国で、現地のスタッフと協働で地方道路整備事業を実施した経験は、私にとって大きな財産になりました。道路整備が終了して、笑顔でお礼の言葉を使う心優しい村人たちの顔は、一生忘れないと思います。このような素晴らしい機会を下さった理事長の木村先生、理事の福林先生、多くのことを教えて下さった専門家、私がミャンマーに駐在するにあたりお世話になった全ての方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。一年間お世話になりました。本当にありがとうございました。



写真 14 事業地の村人との記念撮影

以上